

河内小だより

平成22年4月13日 No.5



← 1年生の生活指導の様子です。一人でランドセルへ入れたり出したり、途中で落ちないようにきちんとしめます。

中庭のチューリップを写生する2年生です。 →



ーテレビを消そうー

作新学院大学特任教授 小林 和男

テレビで長く働き大学でテレビ論を講義している私だが、学生にテレビを消せと呼びかけている。食事の時のことだ。大学での体験から話そう。

あまり成績の芳しくない学生がゼミに入れてほしいとやってきた。成績を理由に断ったのだが学生は「今まで何をやっても中途半端だった。根性をたたき直すために入れてほしい」と粘る。面白い。条件をつけた。ゼミの内容を毎週家に持ち帰り食事の時両親に説明し、その結果を毎週レポートで提出するという条件だ。最初のレポートが面白かった。いつもはお笑い番組を見ながら食事をする息子が突然“冷戦の崩壊”などと話し始めたから、親は笑って真面目に取り合わなかったという。しかし息子は真剣だ。毎週報告しなければゼミから放り出される。息子の熱意に親が引き込まれ、親子で話し合う様子が生き生きとレポートに表れるようになった。学生の成長は目覚ましかった。

1年半のゼミの後、学生は就職試験を受けた。成長ぶりを見ているわたしには企業はこんな若者を見逃さないだろうという確信があった。学生は希望の企業に合格した。報告に来た学生に、最終面接の朝、両親はどんな言葉で励ましたかと尋ねた。頑張れでも落ち着けでもなかった。「今までやってきたことを全部発揮してこい！」だったと言う。親子が対話を続けていたからこそ出た言葉だと思う。

子どものころちゃぶ台を囲んでの家族の食事を思い出す。楽しい話もあったが、いやな説教もあった。しかしその席で何と多くのことを学んだことか。ご飯を30回は噛み、一粒も残してはならないことから、人との付き合いのこつに至るまで、ちゃぶ台で学んだことが今のわたしをつくった。ゼミの学生に家庭を巻き込んだ課題を与えたのは親子の対話をもたらす教育効果を体験で知っているからだ。テレビを消して家族が食事をすれば親は子どもの成長も悩みも感じ取れる。いじめを親が全く気がつかないなどと言うことは起こらない。テレビを消した家族の食事の効果は大きいこと請け合いだ。

「内外教育 平成22年4月6日号」より

【お知らせ】

13日付で、3年生以上の体育の専科として 延國 毅 先生が赴任し、24名の全スタッフが揃いました。1年間よろしくお願ひします。